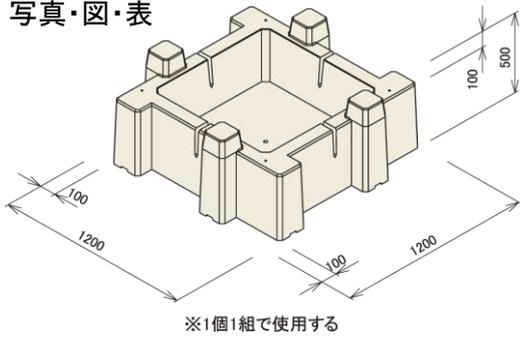


技術概要書（様式）

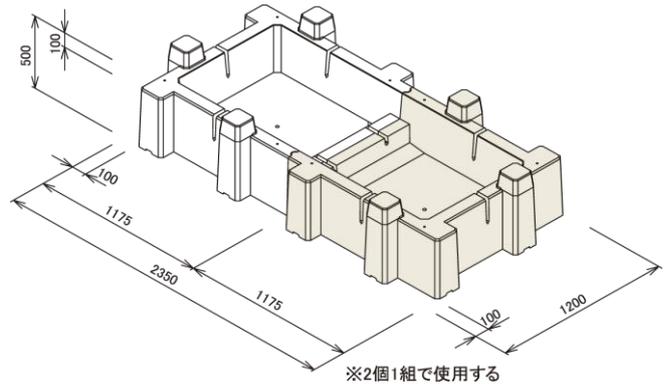
※別紙2

技術分類	安全・防災 維持管理 環境 コスト ICT 品質 （該当する分類に○を付けてください）																				
技術名称	cv護	担当部署	技術本部開発設計部																		
NETIS登録番号	SK-150001-A	担当者	櫻木喜久																		
社名等	株式会社ヤマウ	電話番号	092-872-3352																		
技術の概要	<p>1. 技術開発の背景及び契機</p> <p>従来、河川における護床根固めブロックは、施工現場近くのヤードにリース型枠を持ち込み、そこで必要個数を製造したあとに、河床に設置するという方法が一般的でした。この場合製造時の型枠組み立てや脱型作業など必要個数をそろえるのに、非常に手間がかかる方法でした。現場では簡単に製作できる方法が求められていました。</p> <p>2. 技術の内容</p> <p>プレキャストコンクリート製品を残存型枠として現地に設置し、現地にて中詰めコンクリートを打設することにより、護床・根固めブロックを形作るハーフプレキャスト工法の製品で、従来の現場打ち根固めブロックと比較して施工期間を大幅に短縮することができるようになりました。</p> <p>3. 技術の効果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・型枠の組立て、脱型作業がないため省力化が図られ施工期間を短縮できます。 ・施工現場の状況に応じて標準施工、ヤード製作施工の選択が可能です。 ・標準施工の場合は養生期間の待ち時間がなくなり、また連続鉄筋のためブロック同士の連結作業が不要となり省力化が図れます。 ・自然石等を植石できるため、河川環境に調和させることが可能です。 ・ブロックのかみ合わせと、連結により一体構造となり流水に対し安定します。 <p>4. 技術の適用範囲</p> <ul style="list-style-type: none"> ・河川護岸用張ブロック基礎の根固め工。 ・橋台基礎周辺の根固め工。 ・取水堰下流の護床工。 ・落差工下流の護床工。 ・現地発生石材を植石できる現場では、自然環境を創出できます。 <p>5. 活用実績</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="padding-right: 10px;">国の機関</td> <td style="padding-right: 10px;">0 件</td> <td style="padding-right: 10px;">（九州</td> <td style="padding-right: 10px;">0件</td> <td style="padding-right: 10px;">、九州以外</td> <td>0件）</td> </tr> <tr> <td>自治体</td> <td>3 件</td> <td>（九州</td> <td>1件</td> <td>、九州以外</td> <td>2件）</td> </tr> <tr> <td>民間</td> <td>0 件</td> <td>（九州</td> <td>0件</td> <td>、九州以外</td> <td>0件）</td> </tr> </table>			国の機関	0 件	（九州	0件	、九州以外	0件）	自治体	3 件	（九州	1件	、九州以外	2件）	民間	0 件	（九州	0件	、九州以外	0件）
国の機関	0 件	（九州	0件	、九州以外	0件）																
自治体	3 件	（九州	1件	、九州以外	2件）																
民間	0 件	（九州	0件	、九州以外	0件）																

6. 写真・図・表



Aブロック(1t用)



Bブロック(2t用)

施工手順(1t用)

